

令和３年度 秋学期
授業評価アンケート結果

令和４年３月３１日
滋賀文教短期大学

1. 目次

ページ	内容
1	1. 目次
	2. 授業アンケートについて
2	3. 授業アンケート質問項目
3	4. 授業アンケート集計結果 (1) 全学
4	(2) 国文学科全体
5	(3) 国文学科 1 年生
6	(4) 国文学科 2 年生
7	(5) 子ども学科全体
8	(6) 子ども学科 1 年生
9	(7) 子ども学科 2 年生
10	5. 全学的考察 (1) 授業アンケート結果について
11	(2) 授業の質向上のために
12	6. 国文学科全体の考察 (1) 授業アンケート結果について
13	(2) 授業の質向上のために
15	7. 子ども学科全体の考察 (1) 授業アンケート結果について
	(2) 授業の質向上のために
～16	8. 授業アンケート回答率の推移

2. 授業アンケートについて

■概要

本学では、実習科目を除く全科目の 14 回目または 15 回目で約 10 分程度の時間を設け、授業アンケートを実施している。学生は、学生ポータルサイトからアンケートに無記名式で回答する。

■実施期間

学年暦において 14 回目または 15 回目の授業内で授業アンケートを実施する。

秋学期開講科目は、令和 3 年 11 月 29 日～令和 4 年 1 月 7 日に実施した。

通年開講科目は、令和 3 年 10 月 19 日～令和 3 年 12 月 3 日に実施した。

■授業アンケートの活用

授業アンケートの集計結果（学務課教務担当による集計）、科目レベルの学修成果の査定結果（授業アンケートによる学生の達成実感度と科目 GPA による査定）の主に 2 点をふまえて、授業検討票に省察を記録する。

本学の科目レベルの査定においては、学生の達成実感度 60%以上かつ、科目 GPA が 2.00 から 3.00 までのときを、望ましい水準とアセスメント・プランに定めている。

これらをふまえて、科目担当教員は授業に関してどのような工夫をすれば学生がより学修成果を獲得できるかを検討し、次年度に向けたシラバス改善案を記録する。

さらに、全科目の授業アンケート結果や授業検討票をもとに、各学科の総評を学科長が、全学的総評を FD 委員長が行う。このような取り組みにより、科目レベルだけでなく組織的に授業のさらなる質向上に努めている。

授業アンケートの結果は、概要を本学ホームページで過去 3 年間分、学生ポータルサイトで自由記述欄以外の数値を公開している。また、授業検討票は閉架式にて学務課教務にて保管し、閲覧希望者に開示している。

3. 授業アンケート質問項目

選択式の質問 1～8 は回答必須とし、自由記述欄である質問 9 については任意による回答とした。
質問と回答の選択肢を下記に引用する。

1. あなたは、この授業の到達目標がどのくらい達成できましたか。【単一選択式】

シラバス記載の到達目標のうち、関連するディプロマポリシーにおいてカリキュラムマップ上で二重丸がついているものが科目担当教員から学生に 1 つだけ提示されます。

- ①達成できた ②おおむね達成できた ③達成できなかった

2. 授業内容は興味・関心が持てましたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

3. 授業内容をよく理解できましたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

4. この授業はシラバスに沿った内容でしたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

5. 学生の理解を促す工夫がなされていましたか。【単一選択式】

(言葉による説明だけではなく、適切な資料、板書等の活用、グループワーク)

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

6. 工夫してほしいと感じたことを選んでください。【複数選択式】

- ①特になし ②分かりやすいパワーポイントや板書 ③教科書・配布資料の活用
④聞き取りやすい話し方 ⑤私語への対応

7. 教員は学生の理解や反応を見ながら授業を進めていましたか。【単一選択式】

- ①非常にそう思う ②そう思う ③どちらでもない ④そう思わない ⑤全くそう思わない

8. あなたは、この授業の予修・復修など自主学修に 1 週間あたりどのくらいかけましたか。【単一選択式】

※授業に間接的に関係のある学修を含む。学内外を問わず、授業時間以外の時間を回答（ピアノ練習、基礎プロ準備、実習準備等）

- ①3 時間以上 ②2 時間以上 3 時間未満 ③1 時間以上 2 時間未満
④30 分以上 1 時間未満 ⑤30 分未満

9. あなたがこの授業を受ける中で感じた良かった点や改善してほしい点があれば、記述してください。

(特に記述することが無い場合は空欄のままでも問題ありません)

自由記述欄

4－（１）．授業アンケート集計結果（全学）

■回答者の内訳 *延べ数

全学	受講者数	回収数	回収率
合計	2172	1837	97.2%

■回答数と割合

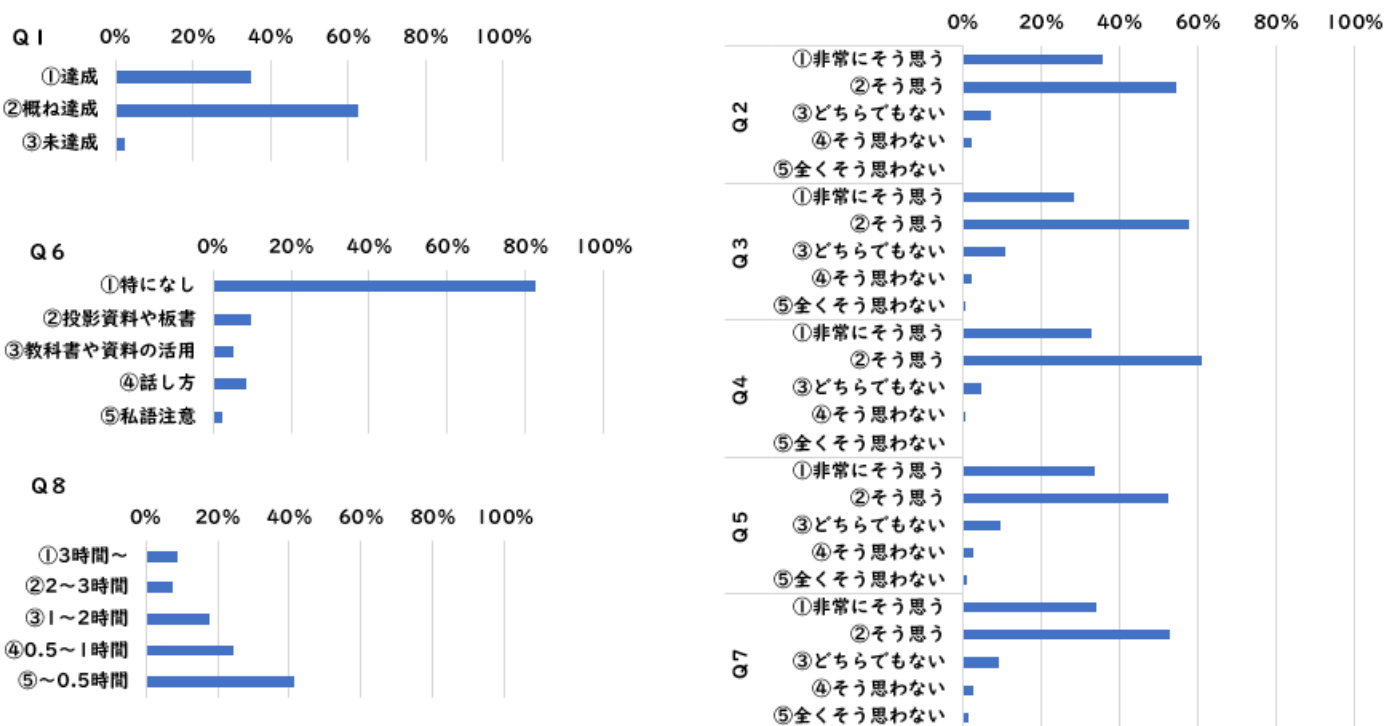
質問	①非常にそう思う		②そう思う		③どちらでもない		④そう思わない		⑤全くそう思わない	
2. 授業内容に関心が持てた	654	35.6%	1001	54.5%	133	7.2%	42	2.3%	7	0.4%
3. 授業内容が理解できた	525	28.6%	1064	57.9%	198	10.8%	40	2.2%	10	0.5%
4. 授業はシラバスに沿っている	607	33.0%	1124	61.2%	90	4.9%	9	0.5%	7	0.4%
5. 授業に工夫があった	621	33.8%	965	52.5%	177	9.6%	52	2.8%	22	1.2%
7. 教員が学生の反応をみて授業を進めた	623	33.9%	969	52.7%	169	9.2%	49	2.7%	27	1.5%

質問	①達成		②概ね達成		③未達成	
1. 到達目標の達成実感度	640	34.8%	1151	62.7%	46	2.5%

質問	①特になし		②投影資料や板書		③教科書や資料の活用		④話し方		⑤私語注意	
6. 授業で工夫してほしいこと	1512	82.3%	183	10.0%	94	5.1%	160	8.7%	41	2.2%

質問	①3時間～		②2～3時間		③1～2時間		④0.5～1時間		⑤～0.5時間	
8. 当該授業に関する授業外学修時間（週）	164	8.9%	138	7.5%	329	17.9%	447	24.3%	759	41.3%

■回答割合（グラフ）



* Q6については、複数選択が可能のため、合計が100%にならないことがある。

また掲載スペースの関係上、質問6については図表中で回答選択肢の文言を一部要約して記述する。以下、同様。

4－（２）．授業アンケート集計結果（国文学科全体）

■回答者の内訳 *延べ数 *両学年同時受講の科目は、回答者の所属が不明であるため4－（３）、4－（４）学年別に算入していない。

国文学科	受講者数	回収数	回収率
1年	313	298	95.2%
2年	215	184	85.6%
1年・2年	24	15	93.3%
合計	552	497	90.0%

■回答数と割合

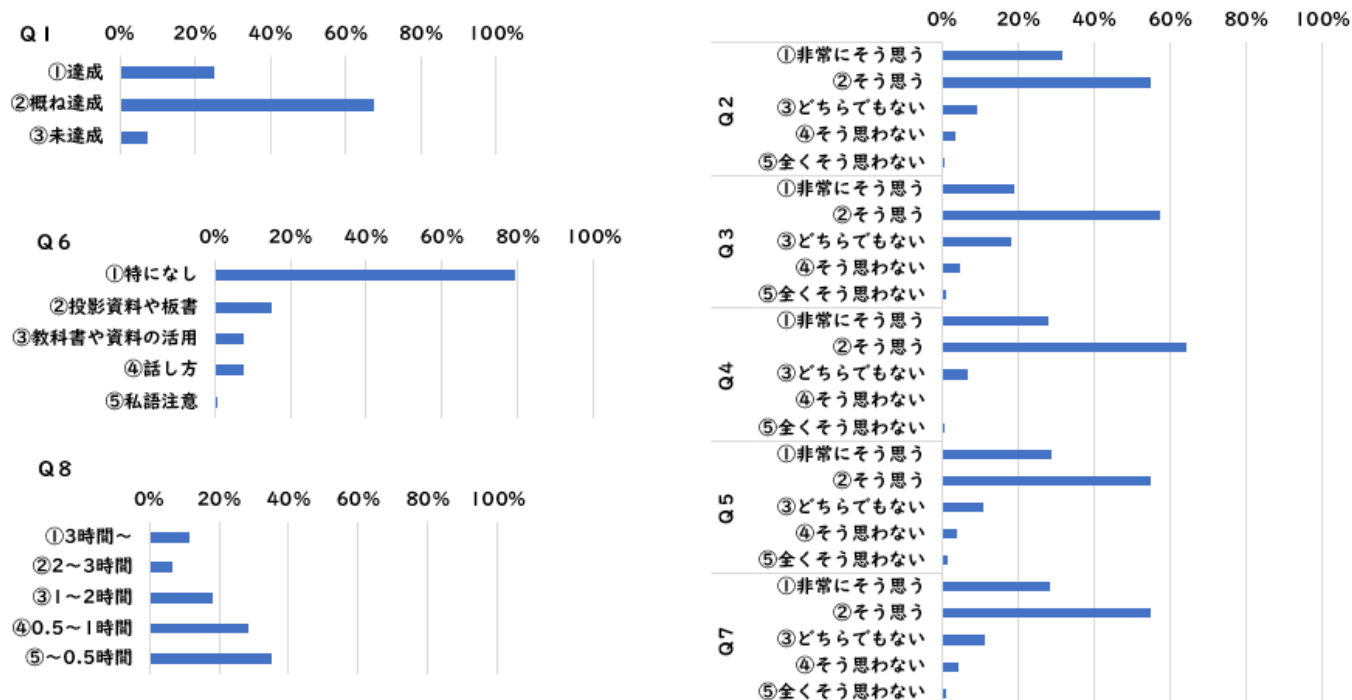
質問	①非常にそう思う		②そう思う		③どちらでもない		④そう思わない		⑤全くそう思わない	
2. 授業内容に関心が持てた	158	31.8%	273	54.9%	46	9.3%	17	3.4%	3	0.6%
3. 授業内容が理解できた	94	18.9%	285	57.3%	90	18.1%	23	4.6%	5	1.0%
4. 授業はシラバスに沿っている	139	28.0%	320	64.4%	33	6.6%	2	0.4%	3	0.6%
5. 授業に工夫があった	144	29.0%	272	54.7%	54	10.9%	20	4.0%	7	1.4%
7. 教員が学生の反応をみて授業を進めた	141	28.4%	272	54.7%	56	11.3%	22	4.4%	6	1.2%

質問	①達成		②概ね達成		③未達成	
1. 到達目標の達成実感度	124	24.9%	336	67.6%	37	7.4%

質問	①特になし		②投影資料や板書		③教科書や資料の活用		④話し方		⑤私語注意	
6. 授業で工夫してほしいこと	393	79.1%	74	14.9%	38	7.6%	38	7.6%	3	0.6%

質問	①3時間～		②2～3時間		③1～2時間		④0.5～1時間		⑤～0.5時間	
8. 当該授業に関する授業外学修時間（週）	57	11.5%	32	6.4%	91	18.3%	142	28.6%	175	35.2%

■回答割合（グラフ）



4－(3)．授業アンケート集計結果（国文学科1年生）

■回答者の内訳 *延べ数

国文学科	受講者数	回収数	回収率
1年	313	298	95.2%

■回答数と割合

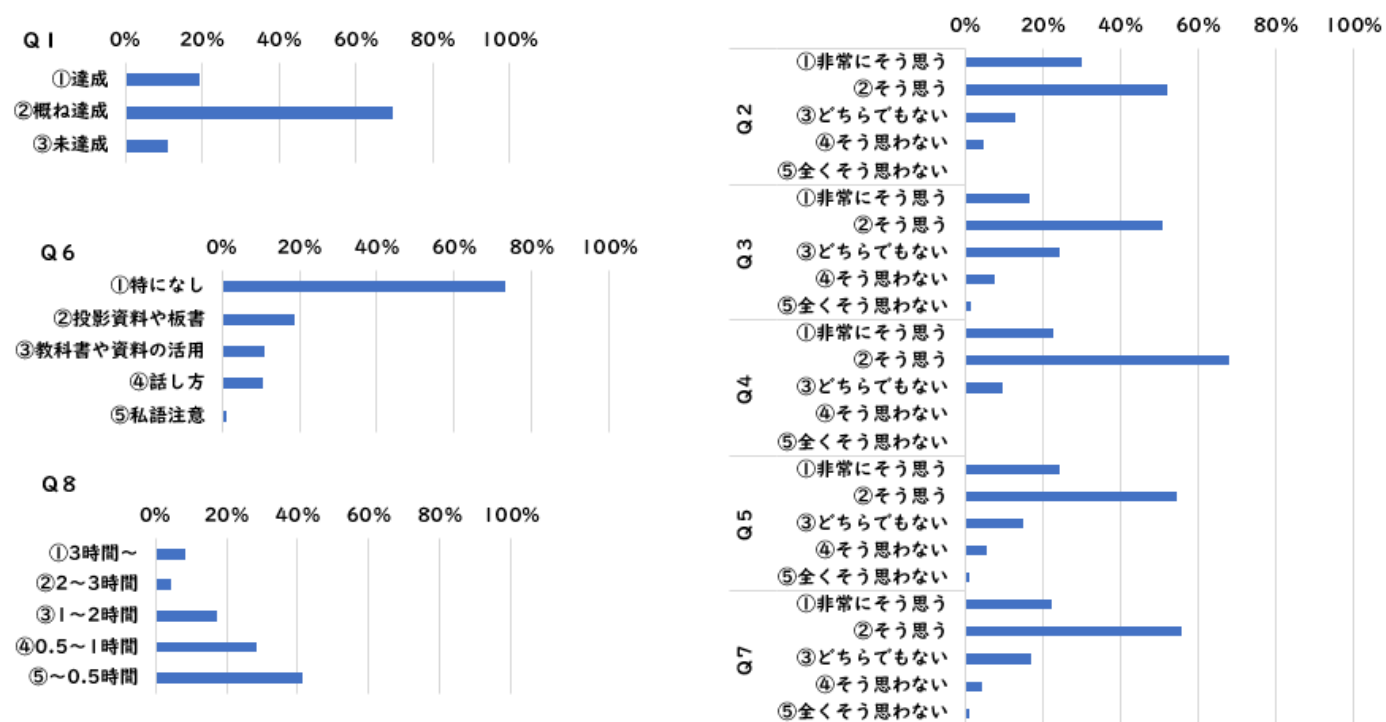
質問	①非常にそう思う		②そう思う		③どちらでもない		④そう思わない		⑤全くそう思わない	
2. 授業内容に関心が持てた	90	30.2%	155	52.0%	38	12.8%	14	4.7%	1	0.3%
3. 授業内容が理解できた	49	16.4%	151	50.7%	72	24.2%	22	7.4%	4	1.3%
4. 授業はシラバスに沿っている	67	22.5%	202	67.8%	28	9.4%	0	0%	1	0.3%
5. 授業に工夫があった	72	24.2%	162	54.4%	45	15.1%	16	5.4%	3	1.0%
7. 教員が学生の反応をみて授業を進めた	66	22.1%	166	55.7%	50	16.8%	13	4.4%	3	1.0%

質問	①達成		②概ね達成		③未達成	
1. 到達目標の達成実感度	58	19.5%	27	69.5%	33	11.1%

質問	①特になし		②投影資料や板書		③教科書や資料の活用		④話し方		⑤私語注意	
6. 授業で工夫してほしいこと	218	73.2%	56	18.8%	33	11.1%	31	10.4%	3	1.0%

質問	①3時間～		②2～3時間		③1～2時間		④0.5～1時間		⑤～0.5時間	
8. 当該授業に関する授業外学修時間（週）	25	8.4%	13	4.4%	52	17.4%	85	28.5%	123	41.3%

■回答割合（グラフ）



4－(4)．授業アンケート集計結果（国文学科2年生）

■回答者の内訳 *延べ数

国文学科	受講者数	回収数	回収率
2年	215	184	85.6%

■回答数と割合

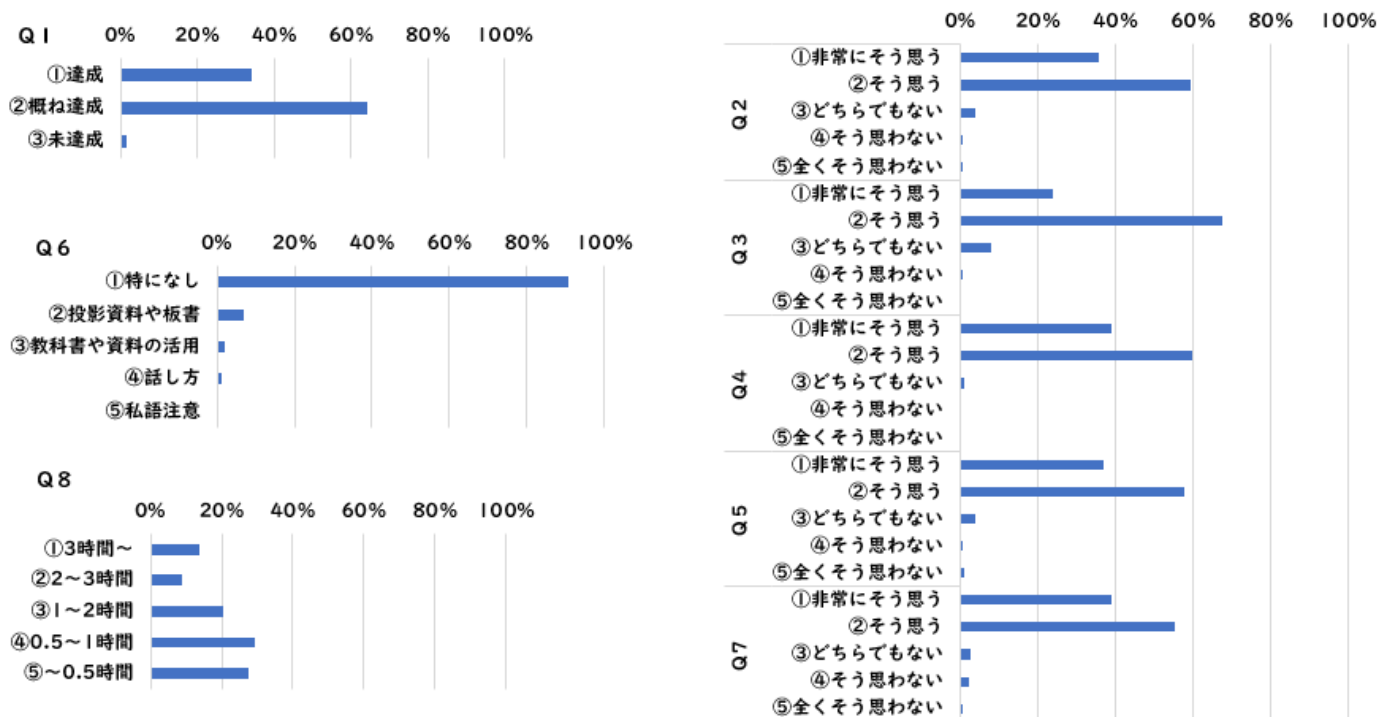
質問	①非常にそう思う		②そう思う		③どちらでもない		④そう思わない		⑤全くそう思わない	
2. 授業内容に関心が持てた	66	35.9%	109	59.2%	7	3.8%	1	0.5%	1	0.5%
3. 授業内容が理解できた	44	23.9%	124	67.4%	15	8.2%	1	0.5%	0	0%
4. 授業はシラバスに沿っている	72	39.1%	110	59.8%	2	1.1%	0	0%	0	0%
5. 授業に工夫があった	68	37.0%	106	57.6%	7	3.8%	1	0.5%	2	1.1%
7. 教員が学生の反応をみて授業を進めた	72	39.1%	102	55.4%	5	2.7%	4	2.2%	1	0.5%

質問	①達成		②概ね達成		③未達成	
1. 到達目標の達成実感度	63	34.2%	118	64.1%	3	1.6%

質問	①特になし		②投影資料や板書		③教科書や資料の活用		④話し方		⑤私語注意	
6. 授業で工夫してほしいこと	167	90.8%	13	7.1%	4	2.2%	2	1.1%	0	0%

質問	①3時間～		②2～3時間		③1～2時間		④0.5～1時間		⑤～0.5時間	
8. 当該授業に関する授業外学修時間（週）	25	13.6%	16	8.7%	38	20.7%	54	29.3%	51	27.7%

■回答割合（グラフ）



4－（５）．授業アンケート集計結果（子ども学科全体）

■回答者の内訳 *延べ数 *両学年同時受講の科目は、回答者の所属が不明であるため4－（６）、4－（７）学年別に算入していない。

子ども学科	受講者数	回収数	回収率
1年	861	709	82.3%
2年	688	572	83.1%
1年・2年	71	59	82.3%
合計	1620	1340	82.7%

■回答数と割合

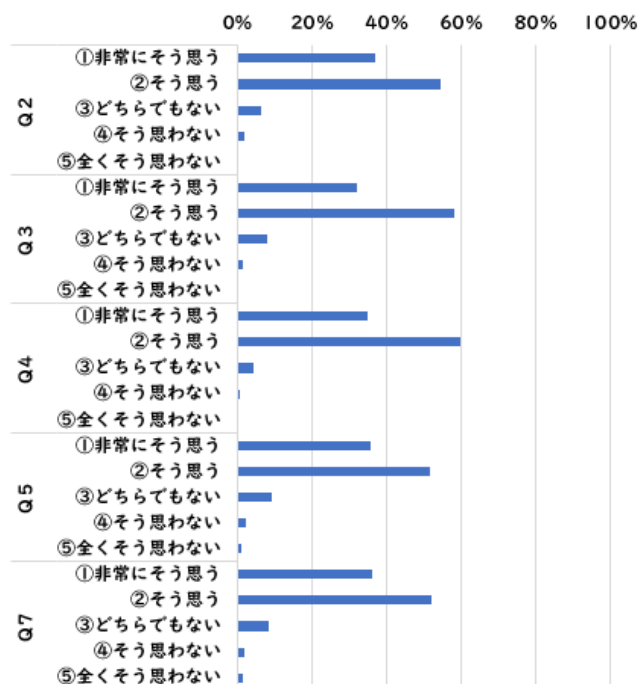
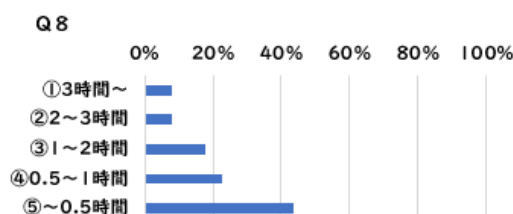
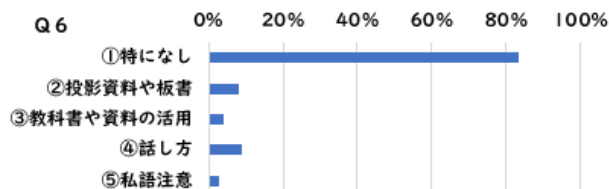
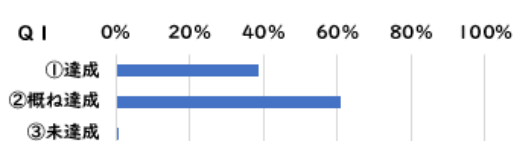
質問	①非常にそう思う		②そう思う		③どちらでもない		④そう思わない		⑤全くそう思わない	
2. 授業内容に関心が持てた	496	37.0%	728	54.3%	87	6.5%	25	1.9%	4	0.3%
3. 授業内容が理解できた	431	32.2%	779	58.1%	108	8.1%	17	1.3%	5	0.4%
4. 授業はシラバスに沿っている	468	34.9%	804	60.0%	57	4.3%	7	0.5%	4	0.3%
5. 授業に工夫があった	477	35.6%	693	51.7%	123	9.2%	32	2.4%	15	1.1%
7. 教員が学生の反応をみて授業を進めた	482	36.0%	697	52.0%	113	8.4%	27	2.0%	21	1.6%

質問	①達成		②概ね達成		③未達成	
1. 到達目標の達成実感度	516	38.5%	815	60.8%	9	0.7%

質問	①特になし		②投影資料や板書		③教科書や資料の活用		④話し方		⑤私語注意	
6. 授業で工夫してほしいこと	1119	83.5%	109	8.1%	56	4.2%	122	9.1%	38	2.8%

質問	①3時間～		②2～3時間		③1～2時間		④0.5～1時間		⑤～0.5時間	
8. 当該授業に関する授業外学修時間（週）	107	8.0%	106	7.9%	238	17.8%	305	22.8%	584	43.6%

■回答割合（グラフ）



4－(6)．授業アンケート集計結果（子ども学科1年生）

■回答者の内訳 *延べ数

子ども学科	受講者数	回収数	回収率
1年生	861	709	82.3%

■回答数と割合

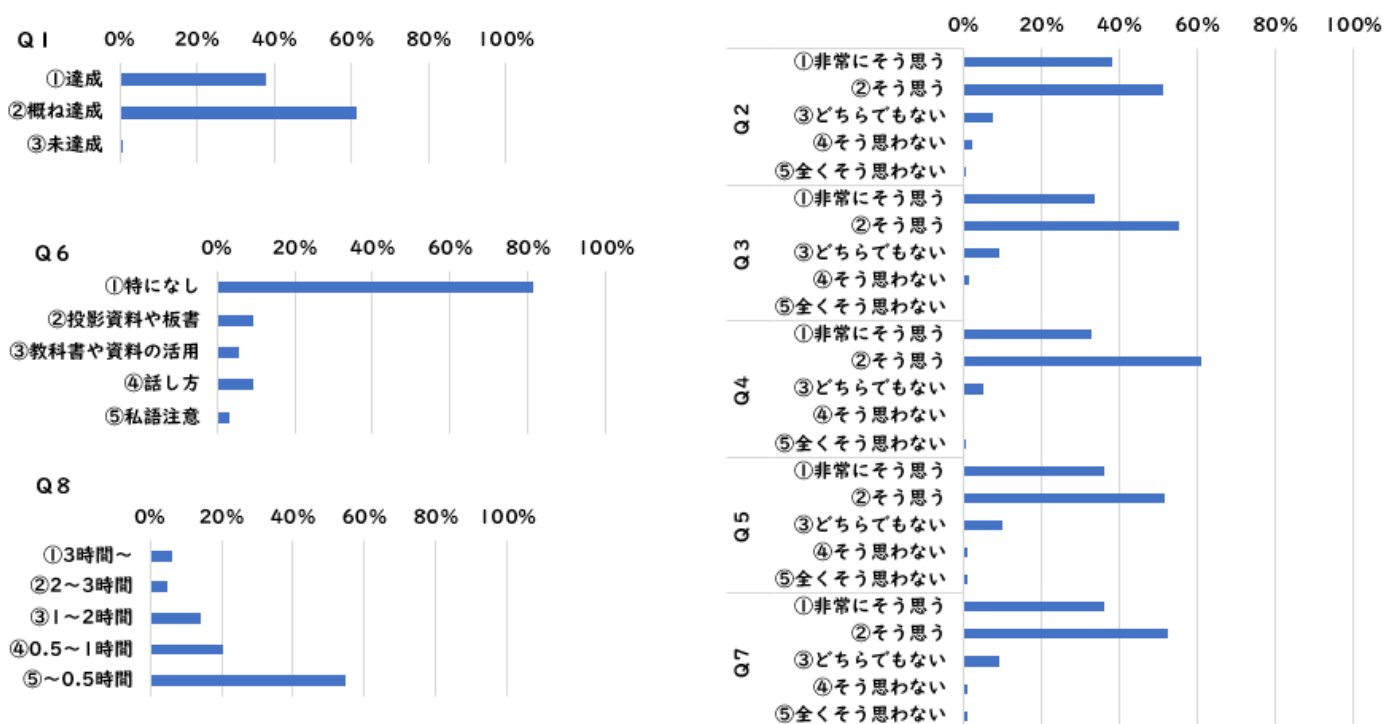
質問	①非常にそう思う		②そう思う		③どちらでもない		④そう思わない		⑤全くそう思わない	
2. 授業内容に関心が持てた	272	38.4%	363	51.2%	55	7.8%	16	2.3%	3	0.4%
3. 授業内容が理解できた	240	33.9%	392	55.3%	65	9.2%	10	1.4%	2	0.3%
4. 授業はシラバスに沿っている	234	33.0%	434	61.2%	36	5.1%	2	0.3%	3	0.4%
5. 授業に工夫があった	257	36.2%	365	51.5%	72	10.2%	7	1.0%	8	1.1%
7. 教員が学生の反応をみて授業を進めた	257	36.2%	372	52.5%	66	9.3%	6	0.8%	8	1.1%

質問	①達成		②概ね達成		③未達成	
1. 到達目標の達成実感度	269	37.9%	434	61.2%	6	0.8%

質問	①特になし		②投影資料や板書		③教科書や資料の活用		④話し方		⑤私語注意	
6. 授業で工夫してほしいこと	577	81.4%	66	9.3%	39	5.5%	66	9.3%	22	3.1%

質問	①3時間～		②2～3時間		③1～2時間		④0.5～1時間		⑤～0.5時間	
8. 当該授業に関する授業外学修時間（週）	43	6.1%	34	4.8%	100	14.1%	144	20.3%	388	54.7%

■回答割合（グラフ）



4－(7)．授業アンケート集計結果（子ども学科2年生）

■回答者の内訳 *延べ数

子ども学科	受講者数	回収数	回収率
2年生	688	572	83.1%

■回答数と割合

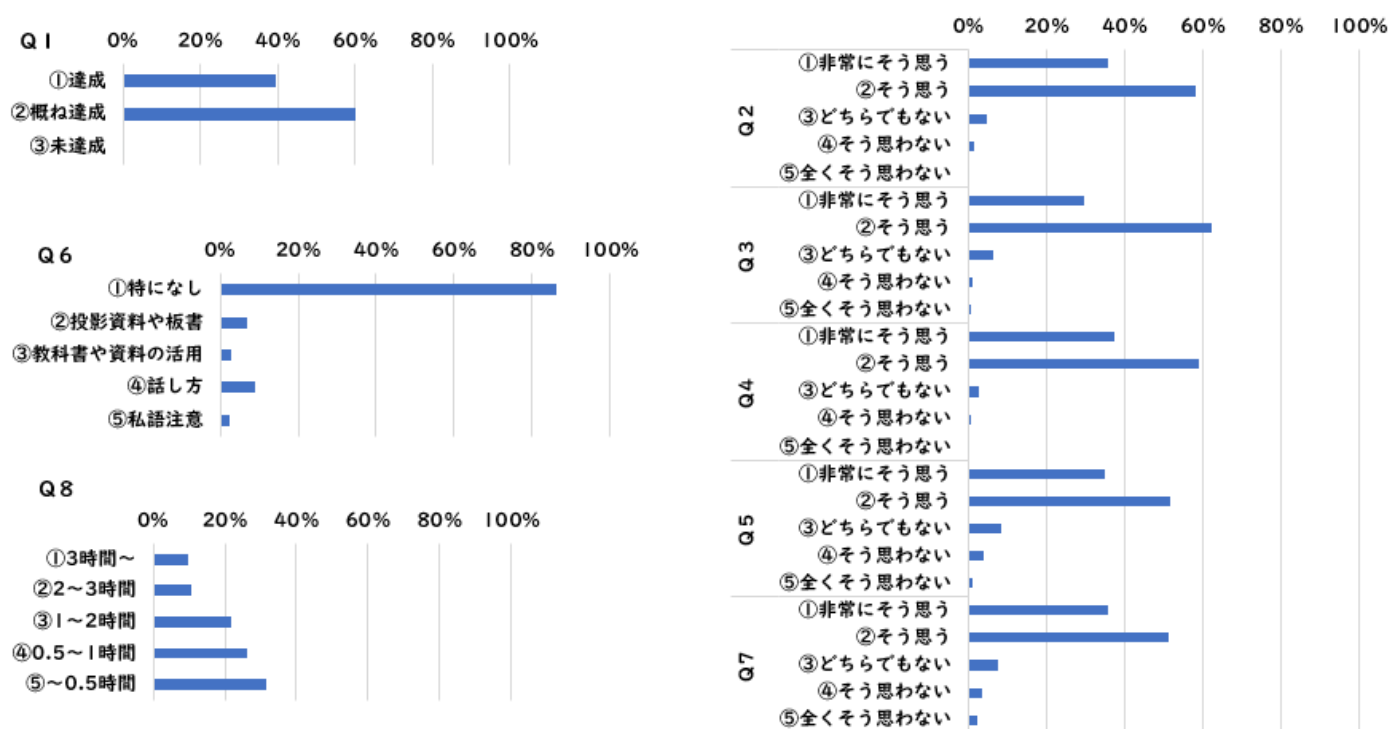
質問	①非常にそう思う		②そう思う		③どちらでもない		④そう思わない		⑤全くそう思わない	
2. 授業内容に関心が持てた	204	35.7%	332	58.0%	27	4.7%	8	1.4%	1	0.2%
3. 授業内容が理解できた	169	29.5%	357	62.4%	36	6.3%	7	1.2%	3	0.5%
4. 授業はシラバスに沿っている	213	37.2%	338	59.1%	16	2.8%	4	0.7%	1	0.2%
5. 授業に工夫があった	199	34.8%	295	51.6%	48	8.4%	23	4.0%	7	1.2%
7. 教員が学生の反応をみて授業を進めた	204	35.7%	292	51.0%	43	7.5%	20	3.5%	13	2.3%

質問	①達成		②概ね達成		③未達成	
1. 到達目標の達成実感度	225	39.3%	344	60.1%	3	0.5%

質問	①特になし		②投影資料や板書		③教科書や資料の活用		④話し方		⑤私語注意	
6. 授業で工夫してほしいこと	492	86.0%	39	6.8%	17	3.0%	50	8.7%	13	2.3%

質問	①3時間～		②2～3時間		③1～2時間		④0.5～1時間		⑤～0.5時間	
8. 当該授業に関する授業外学修時間（週）	55	9.6%	61	10.7%	125	21.9%	150	26.2%	181	31.6%

■回答割合（グラフ）



5－（１）．全学的考察（授業アンケート結果について）

今期も春学期と同様、8 項目の授業アンケートと自由記述を行った。ここでは、その中の 5 項目のアンケート結果を中心に考察する。

質問項目（１）あなたは、この授業の到達目標がどのくらい達成できましたか。

	達成できた	おおむね達成できた	合計
令和 2 年度春学期	33.9%	63.7%	97.6%
令和 2 年度秋学期	23.2%	74.4%	97.6%
令和 3 年度春学期	31.5%	65.0%	96.5%
令和 3 年度秋学期	34.8%	62.7%	97.5%

「達成できた」と回答した学生は、春学期から 3.3 ポイント増加し、「達成できた」「おおむね達成できた」と回答した学生の合計は、1.0 ポイント増加した。また、昨年度同期と比較すると、「達成できた」と回答した学生は 11.6 ポイントと大きく増加した。コロナ禍で、今期は昨年度同期と同様に遠隔授業を実施していた時期があったが、学生が到達目標を達成するために、大変意欲的に学ぶことができたと考える。

質問項目（２）授業内容は興味・関心が持てましたか。

	非常にそう思う	そう思う	合計
令和 2 年度春学期	36.1%	54.2%	90.3%
令和 2 年度秋学期	26.9%	61.6%	88.5%
令和 3 年度春学期	35.6%	53.2%	88.8%
令和 3 年度秋学期	35.6%	54.5%	90.1%

「非常にそう思う」と回答した学生は、春学期と同じ 35.6%で、「非常にそう思う」「そう思う」と回答した学生の合計は、1.3 ポイント増加し、9 割以上の学生が興味・関心を持って授業に参加することができた。授業科目・授業内容の多くが同じである、昨年度同期と比較しても、「非常にそう思う」と回答した学生は 8.7 ポイント増加し、「非常にそう思う」「そう思う」と回答した学生の合計も、1.6 ポイント増加した。

質問項目（３）授業内容をよく理解できましたか。

	非常にそう思う	そう思う	合計
令和 2 年度春学期	28.0%	58.7%	86.7%
令和 2 年度秋学期	20.3%	68.7%	89.0%
令和 3 年度春学期	28.8%	54.7%	83.5%
令和 3 年度秋学期	28.6%	57.9%	86.5%

「非常にそう思う」と回答した学生は春学期より 0.8 ポイント減少したものの、「非常にそう思う」「そう思う」と回答した学生の合計は、3.0 ポイント増加した。昨年度同期と比較しても、「非常にそう思う」と回答した学生は 11.3 ポイント増加している。このことは、質問項目（２）と関連し、授業内容への興味・関心が持てると、授業内容の理解も高いと言える。

質問項目（５）学生の理解を促す工夫がなされていましたか。（言葉による説明だけでなく、適切な資料、板書等の活用、グループワーク）

	非常にそう思う	そう思う	合計
令和 2 年度春学期	37.0%	53.4%	90.4%
令和 2 年度秋学期	27.8%	63.8%	91.6%

令和3年度春学期	33.7%	52.3%	86.0%
令和3年度秋学期	33.8%	52.5%	86.3%

「非常にそう思う」と回答した学生は、春学期よりも0.1ポイント増加し、昨年度同期よりも6.0ポイント増加した。質問項目（6）工夫してほしいことを問う質問に対しては、「特になし」と回答した学生が82.3%（春学期+8.5ポイント）、「分かりやすいパワーポイントや板書」と回答した学生が10.0%（春学期-8.6ポイント）と、春学期より改善が見られる。

質問項目（8）あなたは、この授業の予修・復修など自主学修に1週間あたりどのくらいかけましたか。

※授業に間接的に関係のある学修を含む。学内外を問わず、授業時間以外の時間を回答（例 ピアノ練習、基礎プロ準備、実習準備等）

	3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満
令和2年度春学期	8.9%	8.1%	21.4%	23.4%	38.3%
令和2年度秋学期	7.8%	7.9%	23.4%	29.7%	31.2%
令和3年度春学期	6.6%	4.8%	12.5%	26.2%	49.9%
令和3年度秋学期	8.9%	7.5%	17.9%	24.3%	41.3%

「1時間以上」自主学修をしたと回答した学生の合計は34.3%で、春学期より10.4ポイント増加した。「30分未満」と回答した学生は春学期よりも8.6ポイント減少したものの、41.3%と依然高い数値を示している。また、今期と同じように遠隔授業を実施した昨年度同期と比較しても、「30分未満」と回答した学生は10.1ポイント増加している。

5-（2）. 全学的考察（授業の質向上のために）

今期は、滋賀県にまん延防止等重点措置が適用されたことを受けて、遠隔授業（一部対面授業を実施）でのスタートとなった。遠隔授業は、昨年度同期にも実施しており、2年生の学生には馴染みのある授業形態である。また、教員も昨年度の遠隔授業を踏まえ、学生の興味・関心や理解状況等を考えて授業を改善したことで、授業内容への興味・関心（質問項目（2））や授業内容の理解（質問項目（3））の数値が、昨年度同期よりも伸びたと考える。また、対面授業においても、グループワークや話し合いの際には、学生間の距離や密を避けるための場を工夫したり、反転授業を実施したりするなど、コロナ禍におけるアクティブ・ラーニングの推進をはじめとする授業改善を行ってきた。学生の学修への意欲や目標の達成、授業内容の理解の数値からも、授業の内容が満足のものに近いと捉えることができる。

しかし、1週間あたりの自主学修時間については、40%以上の学生が「30分未満」と回答しており、依然高い数値を示している。家庭での学修習慣を定着させるためには、個々の学生の学修へのモチベーションや学修意欲の向上が不可欠である。シラバスには、予修・復修の内容と時間を明記しており、反転授業の実施や予修・復修に係る課題も提示しているが、家庭での学修習慣の定着に向けて一層の取り組みが必要である。自主学修の充実を図るには、授業と自主学修を接続することが大切であり、課題の出し方や評価方法を工夫する必要がある。課題の出し方としては、知識等を定着させるための課題や授業の発展的な課題や学生が選択できる課題等、出し方を工夫するなど、学生が主体的に学びたいと感じ、成果を実感できる自主学修となるよう改善していくことが求められる。

今後も、コロナ禍における対面授業、遠隔授業の工夫改善が必要であることから、教員の研修を計画的に実施し、学生が能動的に学ぶことができる授業の構築をめざして、大学全体として授業の質の向上を図っていきたい。

6-（1）. 国文学科全体の考察（授業アンケート結果について）

質問項目（3）「授業内容をよく理解できましたか」について、「非常にそう思う」「そう思う」および両者の合

計を過去 4 年間の同時期と比べると次のようになる。

【表 1】	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
平成 29 年度秋学期	22.0%	48.8%	70.8%
平成 30 年度秋学期	20.9%	49.9%	70.7%
令和元年度秋学期	21.0%	53.4%	74.4%
令和 2 年度秋学期	14.5%	73.5%	88.0%
令和 3 年度秋学期	18.9%	57.3%	76.2%

昨年度と比較すると、「非常にそう思う」は若干増加しているが、「そう思う」は 16%以上減少している。昨年度はこの期間のうちで両者の合計が最も高い数値を示したのに対し、今年度は平均的な数値を若干上回る程度になっている。これは今年度春学期と同傾向である。

同じ項目の学年ごとの違いは以下の通りである。

【表 2】	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
1 年生	16.4%	50.7%	67.1%
2 年生	23.9%	67.4%	91.3%

昨年度と同じデータは次の通りである。

【表 3】	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
1 年生	13.7%	70.7%	84.4%
2 年生	15.3%	76.3%	91.6%

上のふたつのデータ（【表 2】【表 3】）を比較すると、昨年度データより今年度の方が 1 年生と 2 年生の著しい違いが看取される。【表 3】の 1 年生と【表 2】の 2 年生は同一集団であり、「非常にそう思う」が約 10%伸びたことにより、授業内容が理解できたと回答しているのが 91.3%と大変高い数値となっている。

それに対し今年度 1 年生は 67.1%と理解度の自己評価は高いとはいえない。ただし春学期は「非常にそう思う」が 18.3%、「そう思う」が 40.5%、合計 58.8%であり、「そう思う」層に厚みが増してきており、改善が見られる。次年度に向けより理解できたと感じられるよう、教員は授業の内容や方法の改善に取り組まねばならない。

質問項目（8）の学習時間について、学年ごとの集計は以下の通りである。

【表 4】	3 時間以上	2 時間以上 3 時間未満	1 時間以上 2 時間未満	30 分以上 1 時間未満	30 分未満
1 年生	8.4%	4.4%	17.4%	28.5%	41.3%
2 年生	13.6%	8.7%	20.7%	29.3%	27.7%

学習時間は今年度春学期においては 1 年生と 2 年生との大きな違いは見られなかったが、秋学期には大きな差が出ている。1 年生は春学期とほぼ変化がないが、2 年生は学習時間の伸びが見られ、30 分未満が大幅に減少している。2 年生については理解度と学習時間との相関関係を見ることが可能であろう。

今年度および過去 2 年の 1 年生の学習時間は以下の通りである。

【表 5】	3 時間以上	2 時間以上 3 時間未満	1 時間以上 2 時間未満	30 分以上 1 時間未満	30 分未満
令和 1 年度 1 年生	3.6%	6.5%	15.0%	35.2%	39.7%
令和 2 年度 1 年生	1.9%	4.4%	14.4%	41.5%	37.8%
令和 3 年度 1 年生	8.4%	4.4%	17.4%	28.5%	41.3%

同じく本年度および過去 2 年の 2 年生の学習時間は以下の通りである。

【表 6】	3 時間以上	2 時間以上 3 時間未満	1 時間以上 2 時間未満	30 分以上 1 時間未満	30 分未満
-------	--------	------------------	------------------	------------------	--------

令和1年度2年生	8.2%	9.7%	11.8%	27.7%	42.6%
令和2年度2年生	5.1%	4.2%	33.1%	31.4%	26.3%
令和3年度2年生	13.6%	8.7%	20.7%	29.3%	27.7%

母数が小さいこともあり、1年生については3年間で有意差はないと思われるが、1年生に比べ2年生の方が全体的に学習時間の伸びが見られることは指摘できる。特に2年生については、事前準備や授業外の学習・作業が必要な授業が多くなっていることが学習時間増加の要因となっていると考えられる。

コロナ禍は今年で2年目であり、遠隔授業の内容や方法、フィードバックから評価まで、教員側としては1年目に比べ経験値をあげて行うことができた。学生も2年生は1年次に比べそうした状況に慣れていたと思われる。そうしたなか、春学期はすべての授業を対面形式で行うことができたが、秋学期は前半をリモート、後半を対面で行わざるを得なかった。今学期は学生にとって不便であったり学習に集中しにくかったりしたと考えられる。特にハイフレックス形式の授業は学生教員双方にとって困難が多かったといえる。

6－(2)．国文学科全体の考察（授業の質向上のために）

学習習慣の定着、学習時間の確保については、少しずつだが着実に定着してきていると評価している。春学期にも指摘したが、次の段階として時間数ではなく質的転換をはかる必要がある。そのためには、①学習のインセンティブを学生に提供し、学生自ら学習のモチベーションを上げられるような学習指導、②特に学習意欲や学力の高い学生に対し、より高次の学習（授業外学習）が行えるよう支援する枠組み構築、を進めなければならない。これは言い換えるなら、学生の主体的学びを教員側がどのように促進し支援するか、という課題である。

数年前に比べ、授業アンケートの数値はおおむねどの項目も伸びを示している。これは学生教員双方の取組の成果と言える。実際多くの支援が行われるようになり、学生もそうした枠組みのなかで学習に励んでいる。他方で多くの支援が行われれば行われるほど、それに対して受け身の姿勢になるという様相も多く見られるようになっている。言うまでもないが、学習の主体はあくまでも学生であり、学生自身が主体的に学習に取り組まなければ学習成果を十分に獲得することはできない。支援を受けやすい体制作りや個々の取組を進めていくのとともに、学生が主体的に学ぶこと、主体性の創出や向上が、授業のさらなる質向上には不可欠である。

そのような主体性の創出や向上を進めるうえでも、授業内外における教員の役割は重要である。特に近年は授業方法も多種多様になっており、教員の教授法の質向上も重要である。教員の共同授業研究や、教授法向上のための研修なども重要である。

7－(1)．子ども学科全体の考察（授業アンケート結果について）

①授業アンケート結果について

質問項目2、質問項目3、質問項目5について、3年間の経緯を比較してみると、次のような結果であった。

質問項目2：授業内容に関心が持てたか

	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
令和元年度秋学期	27.7%	60.0%	87.7%
令和2年度秋学期	29.3%	62.4%	91.7%
令和3年度秋学期	37.0%	54.3%	91.3%

質問項目3：授業内容が理解できた

	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
令和元年度秋学期	21.0%	65.7%	86.7
令和2年度秋学期	26.0%	63.8%	89.8
令和3年度秋学期	32.2%	58.1%	90.3

質問項目 5：授業に工夫があった

	非常にそう思う	そう思う	両者の合計
令和元年度秋学期	23.5%	63.4%	86.9
令和2年度秋学期	28.6%	63.3%	91.9
令和3年度秋学期	36.0%	51.7%	87.7

どの項目についても、ここ数年、高い評価を示す結果がでており、授業内容への関心が高く、意欲的に学ぼうとする姿勢が見られる。理解もよくできていると評価できる。

秋学期は、新型コロナウイルスへの対応で、当初はリモートの授業となり、グループワークや体験活動が制限され、本来計画していた授業が十分にできない状況があった。どうしても講義形式の授業が多くなりレポートの提出が各科目から求められる状況が続き、学生にとってはストレスのたまる日々も続いたように思われる。

そうした中でも、授業への興味・関心を失わず、理解についても、高い数値を示していること、また「授業に工夫があった」についても9割近い数値を示していることは、リモートの授業も2年目を迎え、教員の授業に対する工夫や努力が評価されたと考えられる。また、11月に入り、対面授業が開始されたことで、学生が期待する授業形態が増え、アンケートに示すような意欲的な学びが実現できたと感じる学生が多かったのではないかな。

②学生の学修時間について

次に、「当該授業に関する授業外学修時間(週)」について、3年間の経緯を比較してみると、次のような結果であった。

質問項目 8：当該授業に関する授業外学修時間(週)

	3時間以上	2時間以上～3時間未満	1時間以上～2時間未満	30分以上1時間未満	30分未満
令和元年度 秋学期	3.8%	6.0%	11.8%	25.9%	52.5%
令和2年度 秋学期	12.2%	11.4%	23.1%	22.9%	30.4%
令和3年度 秋学期	8.0%	7.9%	17.8%	22.8%	43.6%

1週間あたりの自主学修の時間は、かなり数値が変化している。これはコロナ禍でのリモート授業の実施状況との関係が大きい。遠隔授業では、1日Chromebookの前で講義を受講し、その後課題であるレポート作成を行うという学習が続くこととなり、自主学習に取り組む時間の確保が難しくなったことと、学習に向けての意欲や体力がかなり消耗していたのではないかと推察する。

ただ、30分未満の学生が半数近い割合という結果は、大きな課題である。遠隔授業であっても対面授業であっても、課題に対して自分で調べたり、考えたりして、答えていくことが自主的な学びの姿勢につながるものであり、今後の学生の学びの姿勢として指導していきたい。

③コロナ禍での授業について

リモートの授業も2年目を迎えたが、質問5の結果からは、授業に対する工夫が評価されていると考える。昨年度当初は、オンデマンドの授業が主であったため、学習時間が不規則になりやすかったことや、レポート提出が各科目で重なり、負担感が大きかったことが見直され、リアルタイムの授業を多く取り入れ、双方向の授業が進められるようになったこと、また学生同士の意見の交流も増えたことが理由として考えられる。

今後もこうした授業体制は予想されるので、教員の研修を行うなどして、より一層指導方法の向上を図っていく必要がある。併せて、環境面での整備についても充実を図っていただきたいと考える。

④前年度または前学期の授業アンケート考察時から改善されたことについて

授業の質的な向上に向けた取組みの成果は、少しずつであるが着実に出てきている。それは、学生の学びの姿勢にも表れてきている。先ほども述べたが、数年前の対面授業が当たり前の時代ではなく、教員が情報機器を活用し、遠隔授業においてもアクティブ・ラーニングを実践していく力量をつけなければならない。併せて、対面授業においては、感染予防に配慮しつつ、話し合い活動やグループワーク等を取り入れ、学生の主体性を伸ばしていく必要がある。アンケート結果をみると、対面授業が主であったころと比較しても数値が大きく落ちることなく高い評価を受けていることは、こうしたことが徐々に進められている結果といえるのではないかと。

7－(2)．子ども学科全体の考察（授業の質向上のために）

PROG や教学 IR の学修成果の査定の結果をもとに、学生に力をつけていくためには、授業をどのようにしていけばよいのかを考えてきたことも成果として出ていると考えている。今後も引き続き、学科として、「授業の質の向上」の取組みを進め、今まで推進してきたアクティブ・ラーニングを取り入れた授業実践を様々な授業形態において進めていきたい。

新型コロナウイルスの対応は今後も続くと思われ。対面授業における工夫やオンライン授業・オンデマンド授業等への対応が求められる。単に機器を使いこなすだけでなく、効果的な活用をすることで、授業の質を高められるように、また、学生自らが情報機器を活用して学んでいけるように工夫をしていく必要がある。併せて、対面授業が求められる実習や演習科目の時間割設定や遠隔授業との効果的な配置等も研究していくことが必要である。

学修時間の向上については、Google の classroom や meet を活用したり、課題の与え方を工夫したりし、自主的な学修の習慣形成ができるようにしていきたい。

具体的には、今後も、学科目標に「授業の質の向上」を掲げ、教員が授業に対して創意工夫のある取組みを推進することが重要であり、研修の機会を充実し、ICT を活用し、より効果的でわかりやすく、情報処理能力が向上するような授業を進めていく力を伸ばしていくことも大切であると考え。

8．授業アンケート回答率の推移

本学では、平成 30(2018)年度まで紙媒体で実施していた授業アンケートについて、令和元(2019)年度より電子媒体である学生ポータルサイト（Campus Plan portal）を利用している。

本学では授業アンケートは無記名式の回答であるため、学生への授業アンケート回答の催促はしない。

今学期と過去 3 年間について、回答率の推移を学科・学年別に比較する。

		国文学科		子ども学科		両学科合同		全学	
		回収率	回収/受講	回収率	回収/受講	回収率	回収/受講	回収率	回収/受講
紙媒体	平成 30 年度春学期	96.5%	1084/1123	97.3%	2402/2469			99.7%	3580/3592
	平成 30 年度秋学期	91.3%	647/709	82.6%	1269/1536			85.4%	2245/1916
電子媒体	令和元年度春学期	89.1%	452/507	81.3%	959/1180			83.6%	1411/1687
	令和元年度秋学期	86.0%	442/514	88.6%	952/1074			87.8%	1394/1588
	令和 2 年度春学期	85.9%	511/595	89.6%	1097/1224			87.0%	1669/1918
	令和 2 年度秋学期	76.1%	388/510	83.2%	939/1129			81.0%	1327/1639
	令和 3 年度春学期	91.7%	527/575	86.8%	1413/1628	80.8%	42/52	87.9%	1982/2255
	令和 3 年度秋学期	90.0%	497/552	82.7%	1340/1620			84.6%	1837/2172
平均・合計		88.3%	4548/5085	86.5%	10371/11860	80.8%	45/52	87.1%	15445/16767

一般的に大学で学生にアンケートを実施する際は、紙媒体の方が電子媒体よりも回収率が高いといわれている。

本学は今年度で電子媒体での授業アンケートの実施は3年目となり、学籍異動のない在学学生は全員が入学時より電子媒体で授業アンケートに回答している。今年度は、学生がポータルサイトや機器の使用方法にも慣れてきたためか、最後に紙媒体で授業アンケートを実施した頃と同程度の回答率が得られた。学生が安心して回答できるよう、授業アンケートは無記名式かつ電子媒体での実施を継続する予定である。

次年度以降も引き続き、まず学生の声を聴き授業改善について検討する材料を十分集められるよう、授業内の確実な授業アンケートの実施に努めていく。

以上